**ことばをとりまく問題**

ことばの問題、危機言語、母語、ことばの文化性

問題解決を一つの目標の基軸とする国際理解教育にとって、「ことばをとりまく問題」をどのように扱うかは、大きな課題となっている。この教材は、学習者がことばをとりまく状況を総合的に捉える中で、それらの状況が自分そして他者にとってなぜ問題なのか、さらには社会的に何が問題なのかについて共に考えることを通して、「ことばをとりまく問題」を多面的に捉えることを意図して作成されている。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ねらい | ： | ・ことばをとりまく状況への全体的な理解を深める。  ・ことばをとりまく状況の中から、自分にとって何が問題なのかを考える。  ・自分にとっての問題そして他者にとっての問題を踏まえ、社会にとっての「ことばをとりまく問題」を多面的に考える。 |
| 対象 | ： | 高校生以上 |
| 所要時間 | ： | ３０分～６０分 |
| 準備 | ： | ことばをとりまく状況への関心を高めておく。  ワークシート「ことばをとりまく状況」を人数分準備する。 |
| 進め方 | ： | １．教師は「ことばをとりまく状況｣ワークシートを配布し、それぞれの項目について簡単に解説する。  ２．学習者は、自分がそれらの状況の中から特に問題だと考える項目を３つ選ぶ。（この選択時に９項目をランキングすることも可能。）  ３．選ばれた問題についてみんなで共に話し合う。 |
| 留意点 | ： | 「ことばをとりまく問題」を多面的に考えることができるために、お互い、自分の問題にとどまらず他者の問題にも十分な関心を払えるような関係づくりに心がける。 |
| 発展 | ：た | とり上げた９項目の中から、いくつかの項目を個別に取り出し深めていくことができる。また９項目以外の問題について意見を出し合うこともできる。 |

**＜ワークシート＞**

**ことばをとりまく状況**

1. **文字文化･文字化社会が広がる中、無文字文化・口承文化は徐々にその姿が見えにくくなっている。**
2. **英語など主要な言語は世界の多くの地域で使われているが、世界の多くの少数言語は消滅の危機にある。**
3. **日本の学校では、「外国語教育」「外国語活動」という名のもと、ほとんどが「英語教育」「英語活動」を行い、他の言語はあまり教えられていない。**
4. **日本社会では、ネイティブの英語への志向が強く、ノンネイティブの英語への関心は低い。**
5. **言語教育活動の中では、欧米言語のもつ論理性が重視され、日本語のもつあいまいさはあまり重視されない。**
6. **日本の学校では標準語を学ぶことが多く、方言話者の数は減ってきている。**
7. **日本の学校･地域では、外国につながる子ども･大人に日本語指導は行っているが、母語指導はほとんど行っていない。**
8. **日本では文科省が「ことばの力」「言語力」を重視し始めているが、一方、非言語表現への関心は低い。**
9. **携帯･インターネットが急速に普及する中、言語コミュニケーションのあり方自体が大きく変化してきている。**

**（＊ことば＝コミュニケーションのための道具・手段）**